

9 タブレットを活用した歯科保健指導の取り組み

天池千嘉子, 木暮ミカ, 平澤明美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 学校歯科保健指導, タブレット端末, デジタル媒体

はじめに

本学では「歯科保健指導実習」のカリキュラムの一環として臨地・臨床実習Ⅰ,Ⅱにおいて保育所,小学校,中学校等で歯科保健指導を実施しており,従来,歯科保健教育媒体として模造紙媒体(以下:紙媒体)を用いて行っていた。26年度より文部科学省の私立大学等教育研究活性化設備整備事業によって25年度生は1年次2月よりタブレット端末「iPad Air®」(以下:タブレット)が1人1台貸与され,各講義・実習で活用している。その一環として,今回,紙媒体にかわるデジタル媒体を作成し,これを用いた歯科保健指導の有効性について調査したので報告する。

対象および方法

対象:小中学校で歯科保健指導実習を行った歯科衛生士学科3年生20名(小学生担当:14名,中学生担当:6名)

対象期間:平成27年6月S中学校(1年生),

平成27年9月K小学校(1~6年生)

方法:タブレットを活用した歯科保健教育実習(①指導計画作成,指導練習②集団指導)を行い,実習後に選択および自由記載法で質問紙調査を実施した。

結果および考察

1. タブレットを利用したの歯科保健指導

①指導計画作成,練習「指導計画に沿った画面をつくることができたか」の質問では「よくできた」が6名(30%),「だいたいできた」が13名(65%)で大多数の学生が計画通り作成することができたと答えた。

②集団指導「タブレットでの講話,指導について」

の質問では「とても指導しやすかった」6名(30%),「指導しやすかった」9名(45%)だった。その理由として動画や写真を取り入れることで対象者が集中して聞いてくれる,発表原稿がタブレットに表示されるためおちついて講話できたことが要因として考えられる。

2. 紙媒体とデジタル媒体の比較

「練習のしやすさ」では「デジタル媒体」と答えた者が15名(75%),「どちらでもない」が3名(15%),「紙媒体」が2名(10%)であった。これは,紙媒体と比較して,タブレットは簡単に編集でき,持ち運びも便利なため,任意の場所・時間で練習できたからと考えられる。

「講話・指導のしやすさ」については「デジタル媒体」16名(80%),「どちらでもない」3名(15%),「紙媒体」が1名(5%)と回答した。デジタル媒体は手軽に操作できる一方,教室の視聴環境,機器トラブルの問題もあるからと思われる。

「対象者への伝わりやすさ」では「デジタル媒体」9名(45%),「どちらでもない」8名(40%),「紙媒体」3名(15%)であった。特に小学生を担当した者に「どちらでもない」,「紙媒体」と回答する者が多かった。これは小学生がデジタル媒体に対する経験年数が低くその差が影響したものと考えられる。

まとめ

大多数の学生が指導計画をもとにタブレットを操作し歯科保健指導でデジタル媒体を活用することができた。

任意の場所,時間で使えるタブレットは指導練習に有効であった。

今後は対象者の年齢,状況を考慮したうえで歯科保健指導を展開して行く必要がある。